

げんき

八王子市高齢者活動
 コーディネートセンター
 (通称センター「元気」)
 八王子市大横町11-35
 電話&FAX
 042-627-9179
 運営日 月・水・金曜日
 午前10時~午後4時

「次はいつ?」喜びと感謝

明治・大正・昭和が集う歌の会

センター「元気」主催の、「明治・大正・昭和の集う歌の会」が、六月六日(火)、八王子市芸術文化会館いちょうホールの小ホールで開催されました。以下は、この会を企画し成功させた、コーディネーターの伊藤涼子さんと岡稔さんに寄稿をいただきまとめたものです。

一、着想(思い)

講師登録もしている伊藤さんは、月の半分以上を福祉施設の皆さんと一緒に歌う毎日の中で、いつしか、この方々を主人公に、舞台の上でスポットライトが当たるひとときを過ごしていただくことはできないかと考えるようになりました。お化粧をしたり、おしゃれをしたり、快い緊張感が新しい元気を生み出すのではないかと考えたのです。

二、準備(協働)

二月の定例会で、センター

「元気」の主催行事として実施することとなり、岡さんを中心に作業チームができました。各施設に趣旨を説明したところ、喜んで参加していただけることになりました。開催日は六月とし、車椅子で舞台上上がる事ができる会場として、いちようホールを紹介していただき、運良く六月六日を確保できました。

作業チームは、「喜び」と「安全」をキーワードに準備を進めました。会場では、ほぼ一対一の介助がで



舞台一杯に

きるよう、多くのボランティア団体のご協力をいただきました。ホールの下見、椅子の取扱研修、傾聴研修、当日の受付・案内、ピアノ伴奏、合唱、介助、総合司会、ガーベラの花と香り袋



元気一杯に体操

挨拶・紹介、「故郷」合唱プログラムは、詩の朗読

のプレゼント等々、準備段階から当日の進行まで、ボランティア活動の底力を見せた催しとなりました。広報としては、広報「はちおうじ」、アサヒタウンズ、シヨップパース、及びいちょうホールの催し物案内内を利用していただきました。

三、当日(喜びと感謝)

開演の一時前半ごろから参加者の到着が始まり、広い舞台も参加者、付添スタッフ、合唱団で身を寄せ合う状況になりました。

準備体操、指運動と合唱、主催者挨拶と進みます。参加者の出し物が、「花笠音頭」、ギター演奏、「孫」の歌、そして小学校の思い出の歌と続いた後、コーラスひまわりと草原コールが、練られた合唱で締めました。トーク交流では、明治生まれの女性が紹介され、文字通り「明治・大正・昭和が集う歌の会」となりました。最後に、会場全員による合唱で終わりました。

退場の際には、花言葉を添えたガーベラの花と香り袋がプレゼントされ、参加者全員無事に帰途につきました。参加者の感想は、「楽しかった」、「今度はいつ?」に尽き、施設のスタッフからも数多くの感謝の声が寄せられました。

この催しに参加された皆様のリストを三ページに掲載いたしました。

「ご協力に心から感謝を申し上げます。本当に有り難うございました。」

傾聴入門講座など、資質の向上を 平成十八年度活動方針決まる

去る三月十五日の定例会で、平成十八年度の活動方針を、次のように決定しました。

高齢者の特技をあつせんし、地域に還元する高齢者活動コーディネートセンター

の活動も、三年目から主催行事を実施するほどに、「力」がついてきました。

開設五年目に当たる十八年度は、さらに高齢者が生きがいを持って活動できるよう活発に運営します。

一、業務内容の役割分担をさらに明確にして活発に運営します。

二、需要と供給の開拓とフォローアップに力を入れます。地域割り活動と広報活動をさらに工夫をこらします。

三、講師懇談会、輪を広げる男の料理教室など経験を積み上げながら主催行事を実施してきました。十八年度は、講師活動の

発表の場を設けるなど知恵を出しながら運営します。

四、相互研修、訪問研修のほか、コーディネート研修の機会を増やします。例えば、機会を捉え、傾聴入門講座、車椅子介助講習会など、資質の向上をはかります。

五、市当局、関係機関、福祉施設、団体などより一層の連携をはかりま

す。

六、市委託料の適切な支出をはかります。



成約件数四十%アップ 平成十七年度の活動実績

平成十七年度の成約件数は五十一件（前年度三十六件）で、その内訳は次の通りです。

スポーツ・レクリエーション分野 四件（太極拳、認知症予防体操）
料理・健康分野 一件（食生活）
文化・学習分野 五件（ボランテア活動、年金解説、市財政）
音楽・書道等分野 十件（歌唱指導、胡弓、三味線、大正琴、アコーディオン、オカリナの演奏、書道指導）
茶華道・手芸等分野 五件（茶道、ちぎり絵、竹細工）
趣味・娯楽分野 十二件（踊り、民舞、マジック、腹話術、南京玉すだれ、囲碁）
福祉・相談分野 四件（傾聴、話し相手）

主催行事 五件（男の料理教室）
なお、成約できなかったのは五件でした。

講師登録者とコーディネーターとの講師懇談会を、十八年一月に二回（前年度は意見交換会、三回）に分けて開催しました。講師二十名、福祉施設二名、市一

十八名、合計五十一名（前年度七十八名）が集まりま



男の料理教室

した。今回は受け手である福祉施設から受け手側の状況や希望も出され、活発な意見交換で相互理解が深まりました。

運営委員会は定例会と名称を変え、毎月第三水曜日に開催し、十二回延二百一名（前年度延百五十八名）が出席しました。

新人コーディネーターを迎えての相互研修は、六月に三回延二十六名（前年度延二十四名）が参加しました。

毎年実施している訪問研修は、十一月に地元の八王子ボランテアセンターを訪問し、七名が参加しました。

広報紙「げんき」は、第六号（十七年七月）、第七号（十七年十一月）、第八号（十八年二月）と三回発行しました。

夢のようすで

ちぎり絵展に参加

三月三十一日から四月十二日まで、夕焼け小焼けふれあいの里で、花まつりのイベントの一つとして、ちぎり絵展が開かれました。恩方ホーム、ゆうむの両施設が、日頃の成果を披露しました。以下、企画した伊藤涼子さんのお話をまとめました。



恩方ホームの作品



ゆうむの作品

平成十七年の秋のこと、歌唱指導をしている恩方ホーム（上恩方町）で一緒に過ごしていたら、ちぎり絵指導の中山くみ子先生（センター「元気」講師、当時）のお誘いで、ちぎり絵展を鑑賞しました。その華やかさ、静謐さ、そして彩りの美しさに感動し、恩

方ホーム利用者の皆さんのちぎり絵を展示する企画を思いつきました。中山先生や職員の皆さんに相談したところ大いに盛り上がり、早速実行することになりました。

まずは場所探しです。地の元の「夕やけ小やけふれあいの里」に相談し、花まつりのイベントの一環として参加することになりました。仲間も集めました。ゆうむ（西寺方町）でちぎり絵を指導している笠原先生（センター「元気」講師）と助手の渡辺さんに連絡し、合同展示がきまりました。両先生と施設の職員の皆さんに作品を選んでもらっているうちに、あつという間に展示前日となりました。中山先生のお仲間、職員の皆さんや鹿又さん（センター「元気」コーディネーター）もいらつしやるので安心していました。ところが高いところに支柱を立て壁紙を張って展示するには何人かの男手が必要と分かり、鹿又さんが急遽、センター「元気」の男性を集めてくださり、展示に間に合わせることができました。

イベント会場に、中山先生のお仲間の作品と一緒に、しかも舞台上に近いほうに展示していただき、大変嬉しく思いました。イベント日以外はそれほど人の集まる

参加施設(五十音順)

恩方ホーム	参加者三名	スタッフ二名
偕楽園ホーム	"	十名
くらんぱくらんま	"	四名
多摩特養老人ホーム	"	三名
ファミリーマイホーム	"	三名
デイサービスセンター	"	二十八名
参加者合計	四十八名	(うち車椅子十六名)
スタッフ合計	二十五名	

「明治・大正・昭和が集う歌の会」参加者リスト

指導)	八王子ボランティアセンター	車椅子取り扱い指導
	伊藤憲彦先生	傾聴指導
協力ボランティア団体)	草原コトル	十二名
	コラスひまわり	十九名
	八ボネット	六名
	八十台センター「元気」	二十六名
	シア元気塾一〜三期生	十九名
	飛び入りボランティア参加	三名
	協力感謝いたします。	有り難うございました。

場所ではありませんが、展示品に事故がないように、職員や利用者の皆さんも含めて、見張りも兼ねて鑑賞してくれました。そんな中の誰かが、「夢のようだ」とつぶやいた一言が、涙が出るほど嬉しく思いました。

同時にこのような感慨を味わせた施設の方、中山先生とお仲間、鹿又さんやセンター「元気」の皆さんにあらためて感謝の気持ちでいっぱいになりました。有り難うございました。

福祉用具専門相談員

講習会を受講して

コーディネーターの清水正健さんが、(財)東
京都高齢者研究・福祉振興財団の第二回福祉用具
専門相談員指定講習会の課程を修了し、「福祉用
具専門相談員」の資格を取得されました。

以下は、寄稿をいただきました感想です。

私達は、毎日、元気で健
康且つ自立した生活をして
います。万が一、人生の中
途でやむなく心身の機能低
下により障害者になったと
しても、決して恥じること
なく、福祉用具を利用して
自立した生活が出来るので
す。私は「コーディネーター
として、これを支援し、何
かの一助にでもなればと切
に願ひ、この講習を受ける
ことにしました。

講習は、平成十八年二月
十三日(月)から十八日
(金)までの五日間、毎日
午前九時から午後六時まで、
総計四十時間(うち実習八
時間)みっちり行われまし
た。会場は、飯田橋セント
ラルプラザ、受講料は、二
万五千円でした。講習会の
課程を修了すれば資格を取
得でき、修了証書が交付さ
れます。取得試験はありま
せん。

介護保険における福祉用
具は、心身の機能が低下し
日常生活を営むのに支障が
ある要介護者又は要支援者
(以下「要介護者」という)
の日常生活上の便宜を図る
ための用具及び要介護者等
の機能訓練のための用具で
あつて、要介護者の日常生
活の自立を助けるためのも
のです(厚生労働省通知に
よる)。福祉用具をレンタ
ルする業者は、福祉用具専
門相談員の資格者を置く必
要があります。このためこ
このところ資格者を養成す

講師・指導者募集

経験や特技を活かしませんか
センター「元気」では、講師・指導者を
募集しています。
元気な高齢者の皆さん!お持ちの経験・
特技を、誰かのために役立てませんか。

特に次の分野の方を求めています。

- スポーツ・レクリエーション
- 料理
- 健康法
- 音楽・書道

(連絡先)

センター「元気」

TEL&FAX 627-9179

編集員の記

明治・大正・昭和が集う
会、そして傾聴ボランティ
アスキルアップ講習会と、
コーディネーターの、これ
は必要だ、やってみたく
いう日ごろの思いが、次々
と実現できた前半でした。

(R/K)

つばやきを形に、言い出しつ
べの思いがみんなの協力で
育つことを願っています。

(H/O)

役割分担表を見て、広報
ならと思ひその一員になり
ました。入会二ヶ月を経て、

(T/SI)

いろいろな会合等で皆さん
の識見に触れ、考えておら
れる方向性は同じなんだと
気強く感じました。お手伝
いしながらまだまだ吸収す
ることがあるように思いま
す。年齢はロスタイムに入
りましたが、大事な時間と
するよう努めてまいります。

(T/S)

はじめまして。六月より
センター「元気」のコーデ
ィネーターに登録しました初
心者です。早速に広報担当
をおおせつかり、広報紙
「げんき」の発行にーと
いわれましたが、何がなに
やら分からなく、とにかく、
皆に喜んで読んでいただけ
る広報紙を目指して、頑張
りたいと思います。よろし
くお願い申し上げます。

建設業、日本航空、日銀
と、最近プロ根性を疑わせ
る事件が世間を騒がせてい
ます。これらを見るたびに、
ボランティア活動の権限と
責任について考えさせられ
ます。